

令和元年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和2年3月13日（金）

近畿中国森林管理局

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅関係では、近畿圏の1月新設住宅着工戸数は大幅に減少し1万戸を割り込んだ。利用関係別では、持家が4ヵ月連続で減少し、貸家も減少した。分譲住宅は、戸建てが増加したものの、マンションが大幅に減少したことにより2ヵ月ぶりに減少した。

合板関係では、昨年台風19号被害の影響により、カラマツの入荷量が減少していることから外材を代替材として入荷して対応しているが、今年前半も同様にカラマツの入荷量が減少する見通し。

原木関係では、スギは昨秋から引き続き年初の出材も順調であることに加え、九州方面の原木輸出等の不調により西日本に流れ込んでいる影響もあり、価格の下落傾向が続いている。ヒノキは引き合いも多く、昨秋に価格も若干上昇し、一定量の出材量しか見込めないことから引き続き価格は安定している。

以上、現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見等について〉

○国産材の需給動向

- ・石川県内及び京都府内の合板工場では、2019年の年間原木入荷量が前年比4%増となったが、カラマツの入荷量は昨年の台風19号の被害による影響で前年比10%減となったことから代替材として外材を入荷して対応している。今年前半もカラマツは同様に入荷量が減少する見通し。
- ・奈良県内では、年末年始も引き続き天候が安定し、暖冬により積雪も無いことから、素材生産は順調に行うことができしており、出材量は安定している。スギは秋伐り作業が順調であったため、年初も例年以上に潤沢な出材量が保たれており、寒伐り材の出材も例年より早く5月までは安定した出材量が見込まれる。ヒノキは市況を判断しながらの伐採になるため、まとまった出材量は見込めず、大幅な出材増加は見込めない状況。価格推移では、スギ並材は昨秋から引き続き年初の出材も順調であることに加え、九州方面の原木輸出等の不調により西日本に流れ込んでいる影響もあり、下落傾向が続いている。ヒノキ並材は引き合いも多く、昨秋に価格も若干上昇し、一定量の出材量しか見込めないことから引き続き価格は安定している。下級材はバイオマス需要が安定しているうえ、各地で新たな原木の集荷も始まっていることから引き合いも旺盛で安定した価格が続いている。スギ高齢級材は色目合いの良し悪しでの価格差が大きく、黒芯材は値が付かない状況も見受けられる等、引き合いも弱く、全体的に低調な価格で推移している。ヒノキ高齢級材は引き合いがあるものの、製品受注物件も一段落しており、昨年より2割安程度の水準で推移している。
- ・和歌山県内では、FIT認定を受けている木質バイオマス発電所4箇所のうち3箇所で燃料となる原木を集荷中で、もう1箇所も今年7月から集荷予定としている。
- ・兵庫県内の原木市場では、A材の販売価格が下落しており、製材所の買い気もあまり感じられない。製材所の現状としては、製品が売れないことや受注量が少ないことから、価格が安くても買うことができない状況にある。
- ・広島県内では、天候に恵まれ出材、製材等の生産商品の両面で比較的順調に推移している。価格推移では、スギは強保合、ヒノキは引き合いが強くなっており強含みで推移しているが大きな動きではない。

○スギ大径材の有効利用について

- ・岡山県内では、大径材の供給及び需要はほとんどなく、出材された原木は他県の神社仏閣等の用材として少量移出している程度であり、造林や保育等の経費に見合う販売単価での有効利用には課題がある。
- ・合板、集成材、梱包材工場では、設備の新たな更新等により大径材に対応していく取り組み例も聞いているので、そういった取り組みが地域の原木の有効活用に繋がっていくと思われる。
- ・和歌山県内では、高齢級の大径材がチップ材として取り扱われている事例はない。柱取りの並材等は素材生産業者等と製材工場との相対で取引されることが多くなっている一方で、大径材は市売に出され、一般的に大径材になるほど高値で取引されている状況。

- ・スギ大径材の有効利用にかかわる問題は、大径材を加工できる設備があるかないかだと思われる。大径材を加工できる設備がなければ、高齢級で立派な木であっても燃料チップに利用されることが考えられる。

○その他

- ・新型コロナウイルス感染症の影響によって、今後、海外を含めた需給動向に注視する必要があるが、現在のところ大きな変化はない。
- ・国内木材マーケットは消費増税の影響が冴えない状況が続いているが、円高の進行も一服し、輸入材の先安観は払拭されたことから次の展開を探っている。各プレカット工場は当用買いから、春先からの需要動向を睨みつつ在庫補充のタイミングを窺っている状況。
- ・岡山県では、森林経営計画制度の推進に向けて、令和2年度に市町村職員や林業就業者等を対象とした林業技術研修施設を整備予定。
- ・和歌山県内では、12月1日に和歌山県木造住宅生産体制強化推進協議会の主催で国産材（スギ・ヒノキ）の応急木造仮設住宅駆体組立訓練を実施した。災害発生時に建物の修繕工事等で大工職人の不足が想定されるが、木造の金物工法であれば1名の大工職人の指示で誰でも簡単に仮設住宅の駆体を組立できることを実証し、当日は地元女子高生や大学生が組立を経験した。

令和元年度

第4回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

出席者名簿

委員

氏名	所属等
松下 幸司	京都大学 准教授
泉 清久	和歌山県農林水産部 森林・林業局 林業振興課長
池田 稔	岡山県農林水産部 参与
八木 数也	株式会社八木木材 取締役
三栖 基史	株式会社山長商店 常務取締役
大野 英輔	中国木材株式会社 取締役
内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長
難波 芳英	江与味製材株式会社 代表取締役社長
西垣 泰幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長

森林管理局

氏名	役職等
平野 均一郎	次長
善行 宏	森林整備部長
岩田 幸治	資源活用課長
石田 英夫	企画官（間伐推進）
清水 好美	企画官（木材需給対策）
柴田 章治	収穫係長

令和元年度 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属 等	備 考
学識経験者	松 下 幸 司	京都大学 准教授	
都 道 府 県	泉 清 久	和歌山県農林水産部 森林・林業局 林業振興課長	
	池 田 稔	岡山県農林水産部 参与	
素 材 生 産 業	小 出 一 博	株式会社フォレストこいで 代表取締役	ご 欠 席
	八 木 数 也	株式会社八木木材 取締役	
木 材 業 界	三 栖 基 史	株式会社山長商店 常務取締役	
	大 野 英 輔	中国木材株式会社 取締役	
	内 藤 和 行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
	難 波 芳 英	江与味製材株式会社 代表取締役社長	
原 木 市 場 製 品 市 場	西 垣 泰 幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長	